

# 「自ら考え、主体的に学び合う生徒の育成」

～ 心豊かで実行力のある生徒の育成を目指して ～

豊明市立栄中学校

< 連携校：豊明小学校、栄小学校、館小学校、暁幼稚園 >

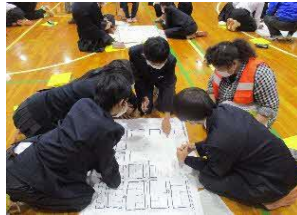
## 1 実践のねらい

持続可能な社会の創り手になるための必要な態度や能力を、授業や生徒会活動等を通して身に付け、地域の人とのつながりを大切にして生きていくためにふさわしい資質や価値観を養う。

## 2 実践の実際

### (1) 自分の命は自分で守る、地域の一員として何ができるのか（1年生：総合）

「地域防災・減災」を考える中で、11月にとよあけ防災ボランティアネットワークの方々を招いて、日頃行っておくべき備えについて話を聞いた。さらに、「HUG」と呼ばれる避難所運営ゲームを行いながら、災害時に、中学生である自分たちが地域の一員としてどのように行動すればよいか体験した。普段、授業や部活動などで使っている体育館が避難所になったと想定して、避難してきた方々が安心して過ごすことができるように何をすべきか、グループごとに意見を出し合った。活動を通して、実際に災害が起こったときには、中学生も避難所を運営する側になることを知った。また、運営するときには一人で考えず、お互いに知恵を出し合いながら最善を探っていくことが大切であることを学んだ。



【避難所運営ゲーム(HUG)】

### (2) 自分の未来は、自分で切り開く（2年生：総合・保健体育）

11月の職場体験学習もキャリア教育のみならず、地域の良さを学ぶことにつながった。事前研修の講師からは、働く際に必要とされる社会的なマナーだけではなく、マスクをしていても表情や振る舞い、言葉遣いなどから気持ちが相手に伝わることを教わった。また、体験時には各企業で取り組んでいる環境問題への対策やリサイクルへの活動、食品ロスに向けての取り組み等を聞いたり、実際に体験したりする中で、たくさんの方々が働いて地域を支え、未来を切り開いていることを知る貴重な経験となった。



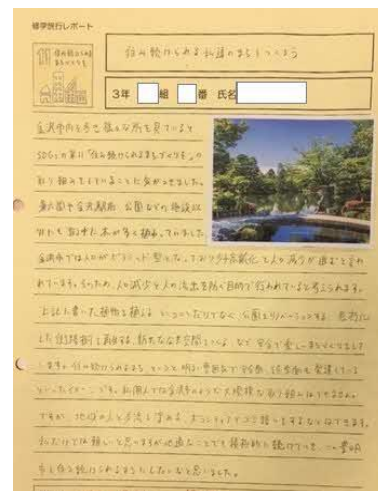
【心肺蘇生法の実習】

保健体育の授業で、災害時に中学生の自分たちができることの一つとして心肺蘇生法があることを学習した。そこで、2月に、藤田医科大学の先生をはじめ「あいちPUSH」の方々を招いて、AEDを使った救命処置の方法を全員が体験しながら、いざというときの救急行動について学んだ。

### (3) 地域のSDGsを学ぶ・地域とともに生きる

（3年生：総合・家庭科）

修学旅行の班別研修で金沢市のSDGsに関わる取組について学んだ。「住み続けられるまちづくりを」目指す金沢市内を、生徒は地図を片手に巡りながら自然や歴史に触れるとともに、我が町豊明市に思いを巡らせた。事後レポートには「このような場所は豊明市にも必要だと感じました。まちづくりを支えていくために、まず



【SDGs事後レポート】

豊明をサイクリングしながら市の魅力を見つけたいです」「私個人としては地域の人と交流を深めるボランティアごみ拾いに参加できます。地道なことを続けていき、この豊明市を住み続けられる町にしたいです」など、豊明市で自分ができることについても綴られ、互いに発表しあうことで地域とともに生きる気持ちが高まった。



家庭科の授業実践として、幼稚園実習を行った。読み聞かせや手遊びをしたり、準備した折り紙をプレゼントしたりして、楽しく充実した活動となった。純粋で素直な園児に囲まれ、生徒も自然と笑顔で言葉をかけていた。生徒は「信頼されている」ことや自らの成長を実感しながら貴重な保育体験ができた。

【園児への読み聞かせ】

### (4) 私たちの活動を伝えたい（吹奏楽部・生徒会）

11月に市内で開催された「豊明秋まつりステージ発表」に、吹奏楽部が出演した。コロナ禍で地域での演奏活動ができない時期が長く続いたが、久しぶりに地域の方々に演奏を聴いてもらえる機会となった。また、生徒たちも他の団体の演奏を聴き、楽しい時間を過ごすことができた。保護者や地域の方々にも好評で、生徒たちは今後も地域での演奏の場を増やして喜んでもらいたいと張り切っている。



【豊明秋まつりステージでの演奏】

生徒会では、昨年度から簡易コンポストでの肥料づくりに取り組んでいる。給食の残菜を何とかしたいという思いから、市役所環境課の方の助言をもとに始めた試行である。残菜を肥料にできればごみも減る。肥料になるまでに時間はかかるが、中学生にも十分できることが分かった。また、「シトラスリボン運動」を、来年度入学してくる小学生にも伝えたいと、全校でシトラスリボンづくりを行った。現在も医療現場は大変で、医療従事者に感謝とエールを伝えるとともに、陽性となった方や持病等で不安を抱えている方々への思いやりの気持ちを互いにもてる学校、地域でありたいという思いは変わらない。そこで、後輩となる小学生にこれらの活動を紹介する動画を作成し、小学校に依頼して学校で見てもらった。また、作成したシトラスリボンをプレゼントした。



【段ボールコンポストづくり】

12月に行われた「市長と語る会」に、生徒代表として生徒会役員が参加した。これは、市長と市教育委員の幹部が中学校を訪問し、中学生と意見を交換するものである。「通学路が暗いので電灯をつけてほしい」「自習できる場所を増やしてほしい」「学校の図書室がとても狭いので、改修して広くしてほしい」「18歳まで医療費が無料の市町があるが、豊明市はどう考えているか」など中学生らしいさまざまな意見が出された。話し合う中で、すぐに実施すること、長期的に計画して進めていくこと、実施しないことの判断をする基準として「5年、10年、20年先の豊明市を考え、長く住み続けられるまちづくり」を目指していることが分かった。



【市長と語る会】

## 3 実践の成果と課題

- 自分たちに何ができるのかという視点で防災教育を推進したり体験学習を行ったりしたことで、地域の一員である自覚と、地域に貢献しようという意識が高まった。
- 本取組を地域や家庭に発信する方策を工夫し、地域や家庭との更なる連携を推進する仕組みを構築したい。